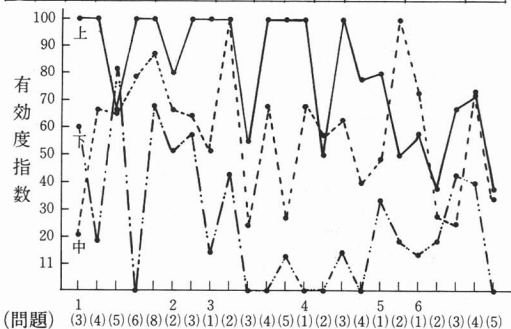


○ 注意係数の高い生徒については、難しい問題に正答したのはまぐれ当たりか、基礎が十分理解できていないのではないか、あるいは学習や理解が不安定なのではないか、などに注意して、個々に検討し、生徒一人一人の以後の指導に生かすわけである。なお、表3では注意係数の値により、次のように表示した。

0.1以下 無印, ~0.3 *, ~0.5 **, ~0.7 ***, ~0.9 ****

表3 Lesson 8 ②テストの結果 (その2)

問 番 号	生 徒	正答率(%)		有効 指 数	問 番 号	生 徒	正答率(%)		有効 指 数
		事前テスト	事後テスト				事前テスト	事後テスト	
1	(3)	上	37	100	4	(1)	上	43	100
		中	76	81			中	10	71
	下	38	75	下		0	0		
	(4)	上	55	100		(2)	上	64	82
		中	57	86			中	33	71
	下	38	50	下		25	25		
	(5)	上	73	91		(3)	上	91	100
		中	71	90			中	48	81
下	38	88	下	13	25				
(6)	上	91	100	(4)	上	18	82		
	中	76	95		中	5	43		
下	63	63	下	0	0				
(8)	上	82	100	5	(1)	上	55	91	
	中	62	95			中	43	71	
下	63	88	下		25	50			
(2)	上	55	91		(2)	上	82	91	
	中	43	81			中	67	100	
下	25	63	下		38	50			
(3)	上	64	100		(1)	上	36	73	
	中	33	76			中	29	81	
下	13	63	下	13	25				
2	(1)	上	55	100	6	(2)	上	27	58
		中	33	67			中	14	38
	下	13	25	下		38	50		
	(2)	上	91	100		(3)	上	45	82
		中	57	100			中	24	43
	下	13	50	下		13	50		
	(3)	上	0	55		(4)	上	36	82
		中	0	24			中	29	81
下	0	0	下	38	63				
(4)	上	45	100	(5)	上	27	55		
	中	24	76		中	14	43		
下	0	0	下	0	0				
(5)	上	91	100	平均	上	55	88		
	中	67	76	中	40	73			
下	0	13	下	22	32				



(2) イメージテストの結果の比較

イメージテストは、学力の情意的側面の意欲や感情を、生徒が「教科の学習や教材」(評価の次元), 「学習における適応性」(潜在力の次元), 「学習への参加」(活動性の次元) に対して抱いている形容詞的連想を手がかりとして数量化し、結果の数値の変動によって、教材の提示の仕方、生徒の学びとりのあり方等、広く学習指導の改善に活用しようとするものである。

本研究においては、表現力育成のための言語活動を行い、生徒一人一人が英語で表現する喜びを味わうことができたとき、個のより確かな学習の成立がみられると考え、指導の結果、情意的側面の変容を確認し、解決策の効果を明らかにする意味でイメージテストを実施した。テストの結果は、次の図のプロフィールとしてとらえることができた。

○ 事前のプロフィール

学級全体のプロフィールは、尺度間のふれの範囲が、2.5~4.0の間にある。英語科の学習については、わずかではあるが、楽しく、面白く、すきな学習であると好意的イメージを持っている。また、大切なので続けたい、とする反面、英語科の学習は、難かしく、めんどうで、積極的に取り組みにくいととらえられている。

男子は、20尺度のうち13尺度において非好意的なイメージを示しているのに対し、女子は6尺度と少なく、女子の方が面白く、愉快で、大切な学習ととらえていることがわかる。

○ 事後のプロフィール

イメージが好意的な方向に転移している尺度は、20尺度のうち15尺度である。特に顕著に表れた尺度は、たのしい、まじめ、きんちょうした、などである。

男女別にみると、好意的イメージを抱いた尺度は、ほぼ同じであるが、男子は、たのしい←→くるしい、はやい←→おそい、きんちょうした←→ゆるんだ、女子は、まじめ←→ふまじめ、まんぞく←→ふまん、などにおいて大きなふれ幅を示している。